



大阪府立北野高等学校図書館 2009.12. 5発行

もうすぐ冬休み。1，2年生にとっては学年の締めくくり前のちょっとホッとする期間。図書館に寄って、借りて行きませんか？長期貸し出しは12月10日からです。3年生の人にとっては本を読む時間があれば「過去問の1題でも・・・」と思っているかもしれません。しかし煮詰まった頭では能率は落ちるばかり。楽しい写真集や気楽に読める本で、頭の中の絡まった糸を解きほぐすのもいいですよ。頭も体と同様、休養が必要です。今回はこの2年間に購入された図書の中で、図書ニュースなどで紹介されなかった本や数学関連の本を紹介します。

①青柳健二「棚田を歩けば」(福音館書店)【616/A1/1】

この本は、日本を中心に世界中の棚田をめぐっている著者による棚田の写真集です。人間が生きていくために、自然から許されるような範囲で必要最低限の手を加えて作られた棚田は、それぞれ土地の形状によって、形もいろいろ。棚田は、自然と人間が一緒になって作り上げた美しい“芸術作品”といえましょう。農家の人々との米作りの1年間、棚田で出会える生き物を、美しい写真と簡潔な文章で紹介しています。日本のみならず、中国やベトナム、イランなど、世界の棚田の写真も見ることができます。

②今森光彦「里山を歩こうPart2 カラー版」(岩波ジュニア新書)

【471/I6/2】

琵琶湖の西、高島市の水の里には、澄んだ水が流れる水路がはりめぐらされています。水路の水を各家庭が、庭や家の中につくった「かばた(川端)」という設備に引き込んでいます。引き込んでいだけではありません。かばたの井戸に湧く水を水路に流し出して、水でとなりの家とつながっています。となりの家、さらにつぎの家と水でつながっているのも、変なものは流せません。だから水がきれいなのです。しかし、ここの人たちは危機感を抱いています。それは琵琶湖にいた固有の魚や貝がどんどん少なくなって、絶滅するものもあることに対してです。

この里「かばた」でつながる人々は、その水を育む源流のことに思いをめぐらせ、下流の琵琶湖やさらに淀川にも思いをはせます。そして自分たちの暮らしが、水で生きものたちともつながっていることを意識します。

琵琶湖水系を愛してやまない写真家の今森さんが、わき水の里の人たちの暮らしと本来の琵琶湖をとりもどすための営みを、美しい写真とともに案内してくれます。「水に触れよう、かかわろう」というメッセージが心に響きます。

③高野 潤「大地と人を撮る カラー版」(岩波ジュニア新書)【296/T7/2】

アンデスとインカに魅せられ、35年間、毎年通い続けた写真家の撮影日記。風と霧に包まれたアンデスの大自然や村の人々の暮らし、伝統的な祭り、食べ物、密林にひっそりと眠る神秘的なインカの遺跡など、その魅力を豊富な写真と文でたっぷりと紹介します。

④シャイエ「地図を旅する永遠の都ローマ物語」(西村書店)【232/C2/1】

30年にわたる研究と8000時間をかけて描いた緻密なパノラマ地図で、歴史と文化の宝庫古代ローマを完全再現。ローマを訪れた青年の案内で、歴史、文化、民衆の暮らしぶりを紹介します。写真も豊富に掲載。古代ローマ大型復元地図付き。

⑤辛島 昇「インド・カレー紀行 カラー版」(岩波ジュニア新書)

【383/K11/1】

カレーといえばインド。では、いつ、どこで、どうしてできたか、知っていますか。インドでは、どんなカレーを食べているのだろう。インド史研究の第一人者が、カレーライスの起源を探りながら、各地の特色あふれる料理を味わい、歴史と文化を語ります。バラエティに富む料理の美しい写真に、本場カレーが食べたくなります。

⑥田中敬三「粘土でにやにゆによ」(岩波ジュニア新書)【378/T3/1】

この本には77枚もの写真が載っています。泥んこ粘土を顔や頭に塗りたいくったり、帽子のように粘土を頭にのせたり、ムニューと手からしぼり出したり、プスプスと棒で刺したり、玉入れのように投げてみたり……。粘土遊びのあまりの大胆さに、びっくりするかもしれません。この本の舞台は滋賀県、琵琶湖近くの「第二びわこ学園」という施設です(現在は、びわこ学園医療福祉センター野洲に改称)。

粘土で大胆にあそんでいるのは、心身に重い障がいのある「園生さん」たち。耳や目が不自由で言葉での意思疎通が難しい、手足にマヒがあり自由に動けない、逆にじっとしていることができず、特定のものに強いこだわりがある……といった人たちが、粘土に自分の思いをのせてあそぶようになったのです。

うれしさ、時には苛立ちや悔しさも、黙って受け止めてくれる粘土のような存在の大切さ、結果を性急に求めず「待つ」という相手への信頼、押しつけられるのではなく自由に表現することの力強さ……。第二びわこ学園の「にやにゆによ」の世界は、本当は大事なことのはずなのに、効率や利益ばかりが追求される世の中でないがしろにされているものに気付かせ、励ましてくれるようです。

⑦有川 浩「フリーター、家を買う。」(幻冬舎)【913/A34/6】

就職したもののたった3ヵ月で退社。希望の職にはつけず、やむなくフリーターとなった25歳の青年。近所のいじめにあって精神を病んだ母親を助けるべく一念発起。崩壊しかかった家族の再生と「カッコ悪すぎな俺」の成長を描く、勇気と希望の結晶。

⑧奥田英朗「町長選挙」(文藝春秋)【913/O34/5】

おかしい患者たちが次々と登場するご存知、トンデモ精神科医・伊良部シリーズ。『イン・ザ・ブルー』『空中ブランコ』に次ぐ待望の第3弾の登場です。

離島医療のため都下の離れ小島に赴いた伊良部。そこでは島を二分して争われる町長選挙の真っ最中……。双方に利用され、嫌気がさした彼がなんと引き籠もりに。トンデモ精神科医の暴走ぶり健在。

⑨**青柳 いずみ**「**六本指のゴルトベルク**」(岩波書店)【762/A8/2】

トマス・ハリスのベストセラー『羊たちの沈黙』に出てくる天才殺人鬼レクター博士には、左手の中指が2本ある。バッハの「ゴルトベルク変奏曲」を好んで聴き、続編では自らハープシコード（映画ではピアノ）も弾く。さて、その腕前やいかに.....。

トルストイの名作『クロイツェル・ソナタ』から伊坂幸太郎『魔王』に至るまで、クラシック音楽が重要な役割を果たす作品は多い。そんな古今東西の純文学・ミステリーを、ピアニストで文筆家の著者が読み解く。

クラシックは苦手、という読者も、小説の中で紹介されている音楽を聴きたくなってくる。

⑩**森 まゆみ**「**女三人のシベリア鉄道**」(集英社)【915/M26/1】

かつて森鴎外、夏目漱石が留学したときには船で40日もかかったヨーロッパへの旅。ところが1912年にシベリア鉄道が開通されると、10日余りに短縮。これを利用してヨーロッパへ旅したのが、与謝野晶子、宮本百合子、林芙美子の近代文学を代表する3人の女性文学者である。晶子は1912年、先にパリに行っていた夫の寛の元に行くために、百合子は1927年革命後のソ連を見るために女友達のロシア文学者湯浅芳子と共にモスクワへ、芙美子は1931年に憧れのパリに行くためにシベリア鉄道に乗った。

著者はウラジオストクからモスクワ、パリまでの鉄道を完乗、勇敢な3人の女たちのエネルギーに思いを馳せ、現地の人々の声に耳を傾けながら、旧社会主義国の重い歴史を体感する。

⑪**香山リカ**「**悩みの正体**」(岩波新書)【361/K30/2】

本書では、「場の空気が読めなかったらどうしよう」「働いても生活できない」「まじめに生きてきて損をした」など、現代人ならではの「悩み」を30ほど取り上げ、その「悩み」が生じる背景や原因を探ります。そうすることで、そうした「悩み」が、けっして「自己責任」などではないことが明らかになることでしょう。疲れた心を解きほぐすためにも、まずは「悩み」の正体を見極めることから始めてみては、いかがでしょうか。

⑫**徳田雄洋**「**デジタル社会はなぜ生きにくい**」(岩波新書)【007/T3/1】

わかりにくい操作、突然の不具合、巧妙な詐欺など、デジタル社会に生きる困難は確実に深まっている。それはなぜか。技術者の設計に問題はないか、メディアは必要なことを伝えているか、利用者は素朴に信じてしまっていないか? 私たちを待っているのは悪夢のような未来なのか。一人一人が生き延びるための心得を考える。

⑬**加藤陽子**「**それでも、日本人は「戦争」を選んだ**」(朝日出版社)

【210/K103/1】

東大教授で日本近現代史を専門とする著者が、中高生に講義した内容をまとめたものです。なぜ、多大な犠牲を払う戦争が起きるのか、目的は何か。近代日本の足跡をたどりながら、戦争とのかかわりを検証します。質疑応答が紋切り型でなく、新鮮である。

⑭**結城 浩**「**数学ガール**」(ソフトバンククリエイティブ)【410/Y15/1】

本書は、三人の高校生が数学にチャレンジする楽しい読み物です。才媛ミルカさん、元気少女デトラちゃん、それに「僕」の三人が放課後の図書室で...教室で...喫茶店で、学校の数学とはひとあじ違う数学に挑戦します。 数学的内容はいたって真面目、きわめて真剣です。 目指せ《理系にとって最強の萌え》。オイラー生誕300年に捧ぐ魅惑の数学物語。

⑮**結城 浩**「**数学ガール／フェルマーの最終定理**」(ソフトバンククリエイティブ)

【410/Y15/1】

前作で活躍した三人の高校生は今回も大活躍。 それに加えて、「僕」の従妹のユーリという新キャラ登場! 高校生の数学ガールたちにかき回される「僕」の日常を、 女子中学生のユーリが自宅ですらにかき回します。 もちろん今回も、数学的内容はいたって真面目、きわめて真剣。 目指せ《理系にとって最強の萌え、もっと》。

⑯**芳沢光雄**「**数学で遊ぼう**」(岩波ジュニア新書)【410/Y13/2】

誕生日当てゲームをして、おじいちゃんやお婆さんの誕生日を当ててみよう。「数学ができるねえ」と感心されるぞ。やさしい数学を使うだけで、毎日接していることが「へえ、そうだったのだ」と新鮮に見えてくる。電車のスピードや木の高さがかんたんに計算できるし、じゃんけんがグー・チョキ・パーである理由もよくわかる。

⑰**畑村 洋太郎**「**直観でわかる数学**」(岩波書店)【410/H10/1】

数学なんてキライだという人、ラクして数学がわかりたい人、問題は解けるのになんだかモヤモヤする人...本書はそんな人に最適です。数式は一切なく、絵で理解する、世にも不思議な数学の本。驚きの直観的説明が、あなたの苦手意識をきれいさっぱり吹き飛ばします。『失敗学のすすめ』の著者のハタムラ式数学。本質がズバリわかります。

⑱**足立恒雄**「**「無限」の考察**」(講談社)【410/A1/3】

数学では、無限の中にも、無限の階層があつて、小さい無限もあれば大きい無限もある。そんな不思議な世界を美しい絵とともに、分かりやすく解説してくれます。文章とイラストの絶妙のコラボレーションについ、引き込まれてしまいます。

お知らせ

① 冬休みに向けての図書の長期貸出し

手続き期間は12月10日（木）～12月24日（木）です。図書の返却は1月8日（金）です。一人、10冊まで借りることができます。

② 冬休み（12月25日～1月7日）中は休館します。